

平成12年12月25日

凍結中大規模事業の方針について

岡山県では、本年度、行財政改革大綱に基づいて凍結等とされていた大規模施設建設事業17件の今後の取扱いについて整理することとし、事業評価委員会で御審議をいただきながら、検討を行ってきた。

本日、事業評価委員会から御意見をいただいたところであり、この御意見を踏まえて最終的に検討した結果、17事業の整理方針を以下のとおり決定した。

なお、県が事業計画を推進していたことを前提に、関連事業を進めてこられた関係市町村や地域振興効果を期待されていた地元の方々などについては、今回の県の方針決定によって様々な影響も考えられることから、先行取得済み用地の処理や今後の地域振興などについて、関係市町村と十分に協議しながら適切に対応していきたい。

- | |
|---|
| <p>1 白紙化 (10件)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 文書館・ グリーンヒルズ津山・ アクア・マリン玉野・ アクア・スポーツサロン美作・ アクア・メディカルリゾート湯原・ 岡南飛行場整備・ 健康の森・ 後楽園周辺整備・ 北部健康増進中核拠点施設・ 吉備歴史文化公園 |
| <p>2 抜本見直し (2件)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 吉備ハイランド・オアシス・ 西部アグリススポーツ公園 |
| <p>3 縮小 (2件)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 総合教育研修機関・ 動物愛護センター |
| <p>4 延期 (2件)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 渋川青年の家・ 岡山地方振興局 |
| <p>5 その他 (1件)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新総合福祉・ボランティア会館 |

「抜本見直し」、「縮小」とした事業の所要事業費 100億円程度
(この他に、「白紙化」とした事業に係る先行取得済み用地の再取得費(50億円程度)が必要)

(参考)

従前の計画のまま再開すると仮定した場合の17事業の今後の事業規模 1,000億円程度
(計画事業費が未定であった事業については、1プロジェクト50～60億円程度と仮定して計算)

(17 事業の今後の方針)

1. 白紙化

1) 文書館

新たな施設の整備は白紙とし、資料の収集・整理を続けることとする。また、既存施設の活用も検討する。

2) グリーンヒルズ津山

一次的な施設整備は概成しており、従前の計画に盛り込まれていた残る施設（センタービレッジ）の建設は中止する。なお、グリーンヒルズ津山全体については、市と協力しながら利用の促進や機能の向上を図る。

3) アクア・マリン玉野

従前の計画（日の出地区における県施設の建設）は白紙とし、これまでの市との協議経過を踏まえ、事業内容・手法、事業主体の変更などについて検討を継続する。

4) アクア・スポーツサロン美作

従前の計画は白紙とする。なお、先行取得済みの用地については、アクセス道路の整備状況を踏まえ、その処理方を検討する。

5) アクア・メディカルリゾート湯原

従前の計画は白紙とする。

6) 岡南飛行場整備

期計画の航空ふれあい施設、航空教育施設、多目的ホールについては、従前の計画を白紙とし、当面、運動広場、緑地等として、地元の利用に供する。なお、ターミナルビルについては、老朽化状況を調査した上で、必要最小限の改築を検討する。

7) 健康の森

整備済み施設の有効活用の促進や機能の向上を図ることとし、従前の計画に基づく新たな施設の整備は中止する。

8) 後樂園周辺整備

従前の計画は白紙とする。なお、先行取得済みの用地については、当該地域の特性が活かされるよう、民間活用を含めた処理方を検討する。

9) 北部健康増進中核拠点施設

従前の計画は白紙とする。なお、先行取得済みの用地については、拠点病院との隣接という立地特性が活かされるような処理方を検討する。

10) 吉備歴史文化公園

従前の県事業の計画は白紙とする。なお、先行取得済みの用地については、吉備路の今後の在り方や市の事業の状況などを踏まえて、その処理方策を検討する。

2. 抜本見直し

11) 吉備ハイランド・オアシス

交流ドーム建設を柱とする従前の事業計画を抜本的に見直し、市の温浴施設や神原スポーツ公園（国体会場）との一体的な利用ができるよう、当面、遊具や広場の整備を実施することにより、エリア全体の概成を図る。

12) 西部アグリスポーツ公園

事業計画を抜本的に見直し、センタープラザ、研修宿泊棟等の建設は行わず、市の体育館（国体会場）との一体的な利用ができるよう、陸上競技場（夜間照明なし）や地元の幅広い利用が可能な多目的グラウンド等を整備する。

3. 縮小

13) 総合教育研修機関

従前の計画による事業規模を2分の1程度まで縮小しつつ、事業化を図る。

14) 動物愛護センター

既存施設の老朽化状況等を踏まえ、適正な事業規模、内容に見直した上で、事業化を図る。

4. 延期

15) 渋川青年の家

当面、所要の改修で対応するとともに、財政状況を勘案しつつ、必要な時期に必要な規模・内容で改築を実施する。

16) 岡山地方振興局

当面、維持補修により現施設を活用するが、施設の老朽化の状況を踏まえ、将来的な事業実施に向け、従前の計画にとらわれず、整備手法や事業規模、内容を抜本的に再検討する。なお、検討に際してはPFI手法の導入可能性も視野に入れ行う。

5. その他

17) 新総合福祉・ボランティア会館

施設の機能・内容を十分吟味し、費用対効果に留意しながら、事業計画の策定を推進し、事業化を図る。